

東通原子力発電所における 建設工事等の状況について



令和7年2月19日
東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

目次

- **東通原子力発電所の概要**
- **発電所建設エリア現場状況**
- **東通1号機 運転開始までの主な工程**
- **地質調査の取り組み状況**
- **地域に根ざした事業推進体制の構築**

東通原子力発電所の概要

- ABWR（改良型沸騰水型軽水炉）2基の建設を計画
- 1号機は、原子炉設置許可等を取得し2011年1月に着工したものの、福島第一原子力発電所事故以降、建設工事を見合わせ
- 工事再開のためには、新規制基準に基づく認可が必要。その申請に向け、敷地内で地質調査を実施し各種データの拡充等を図り、新たな基準に適合する設計検討等を実施中
- 並行して、敷地内の造成などの周辺整備作業を実施

東通原子力発電所立地経緯

昭和40年5月 (1965年)	東通村議会、原子力発電所誘致決議
昭和56年12月 (1981年)	第一次開発計画発表 (東北・東京それぞれ110万kW×2基)
平成11年3月 (1999年)	東京1・2号機 ABWR導入に伴う東通村、青森県への説明
平成18年9月 (2006年)	東京1・2号機 重要電源開発地点指定
平成22年12月 (2010年)	東京1号機 原子炉設置許可
平成23年1月 (2011年)	東京1号機 着工 (工事計画第一回認可)
平成23年3月 (2011年)	東日本大震災の影響を受け、1号機の工事を中断

発電所概要

	1号機	2号機
建設地	青森県下北郡東通村小田野沢	
敷地面積	約4.5km ² （東京ドーム約100個分）	
電気出力	138万5千kW×2基	
炉型	改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）	
着工	2011年1月	未定
営業運転開始*	未定	未定

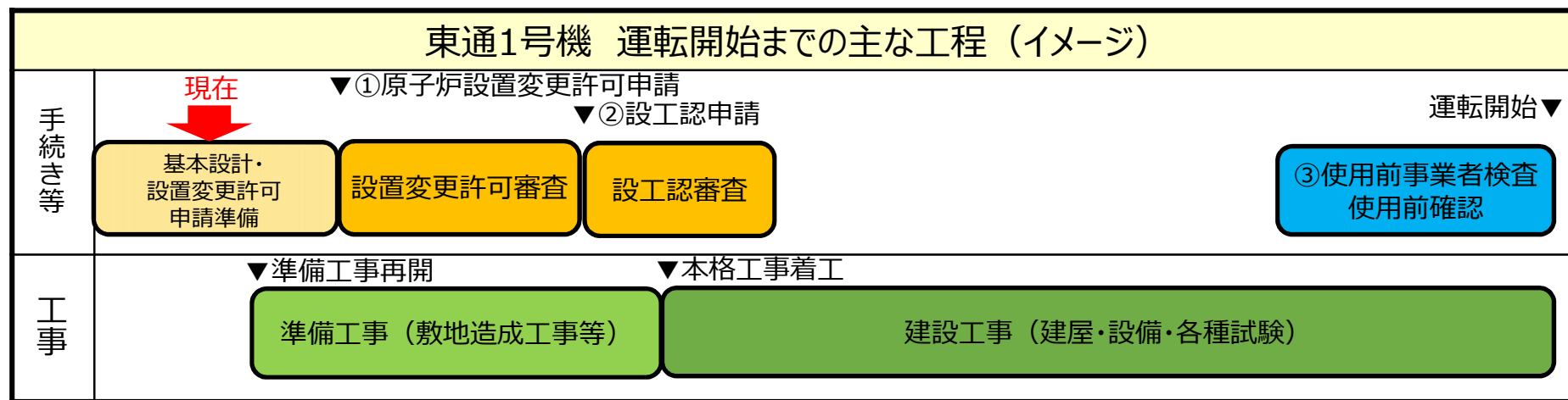
* 2024年度供給計画より

発電所建設エリア現場状況

The main map shows a construction site with several key features labeled: **東防波堤** (East Wave Breaker), **放水口護岸** (Outlet Bank), **北防波堤** (North Wave Breaker), **物揚場** (Material Handling Area), **南防波堤** (South Wave Breaker), **北道路** (North Road), and **南道路** (South Road). A legend in the top right corner identifies **周辺監視区域** (Surrounding Monitoring Area) with a dashed line and **当社所有地** (Company-owned land) with a solid line. Inset photos include: **沈殿池** (Sedimentation Pond) showing a large body of water; **敷地周辺柵管理用道路** (Road for fence management around the site) showing a gravel path; **コア倉庫** (Core Warehouse) showing a long, low industrial building; **ろ過水タンク・水処理建屋** (Filtration water tank and water treatment building) showing a large cylindrical tank and a building; and **ビオトープ・ネットワーク** (Biotope network) showing a natural area with pink flowers and a butterfly.

東通1号機 運転開始までの主な工程

- ▶ 新規基準で強化・新設された安全対策を織り込んで設計検討を進め、国の許認可手続きを順次実施
 - ①原子炉設置変更許可申請
 - ②設計及び工事計画認可（設工認）申請 → 初回認可後、本格工事着工
 - ③使用前事業者検査、国による使用前確認（系統試験・起動試験含む）
- このほか、保安規定、核物質防護規定なども順次申請・認可



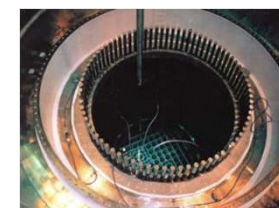
岩盤検査



中央マット完成



原子炉圧力容器据付



燃料装荷

- 新規制基準への適合のみならず、最新知見も踏まえ、より安全性に優れたプラントの設計等に必要な材料を収集するべく地質調査を実施中

＜ボーリングによる地質および地質構造の調査＞

- 敷地の地質および地質構造を把握するため、2018年8月から敷地高台エリアを中心に地下のボーリング調査を実施中

＜試掘坑による地質および地質構造の調査＞

- 敷地の地質および地質構造を把握するため、2019年1月から立坑・横坑掘削工事を開始し、2019年8月から調査を実施中

＜大深度地震観測＞

- 地下深くからの地震の揺れ方の特性を把握するため、これまで敷地内で実施してきた地震観測に加えて地下深く（約2,500m）に調査用地震計を設置し、観測を継続中



試掘坑内部の様子

これまで実施してきた地質調査や他社の国による審査状況等を踏まえて、安全性を確保したうえで建設を円滑に進める観点から、建設エリア内における建物、設備等の配置計画の変更も検討しており、現在、詳細を詰めているところです。

引き続き設計検討等の諸準備を進め、少しでも早く建設の見通しを提示してまいります。

地域に根ざした事業推進体制の構築①

5

- ▶ 2019年7月、地域に根差して原子力事業を進めていくために、本社機能を現地に移転した新たな組織「青森事業本部」を設置
- ▶ 事業本部長として役員が現地に常駐するとともに、建設プロジェクト管理や地域共創（地域づくり等）といった本社機能を現地に置くことで、迅速な意思決定と行動のもと、建設の加速と地域の持続的な発展に貢献する取り組みを実施
- ▶ 青森事業本部発足時約70名（本部設立前は50名弱）だった職員は、現在約120名に増員



- ▶ 今後、建設再開や原子力事業を進めていくにあたり、機能・人員等の更なる強化が必要なことから計画的に事務所や社宅などの基盤整備を実施

「東通ヘッドオフィス」計画

- ヘッドオフィスの事務所や住居・交流施設（独单身寮90室）の整備を開始（2025年12月までの運用開始を予定）
- 食堂・コインランドリーなど福利厚生施設の一部は地域に開放予定（詳細検討中）



屋内広場
(オフィス棟)



食堂
(住居・交流施設)



コインランドリー
(住居・交流施設)



オフィス棟工事現場



住居・交流施設棟工事現場

- 東通発電所は長期的な視点で国民生活を下支えし続ける電源として、重要で不可欠な発電所です。
- 当社は長期にわたり地域に根差した原子力事業を行うために地域とともに、持続可能な地域づくりを実現してまいります。
- 建設にあたっては先進的な国内外事業者の優れている設計等を積極的に取り入れていくことで、世界最高水準の安全で効率的な原子力発電所の実現を目指します。
- 今後とも地域の信頼を第一に取り組んでまいりますので、引き続きのご指導とご鞭撻をお願いいたします。

The logo for TEPCO, consisting of the letters "TEPCO" in a bold, red, sans-serif font.